

～人権が尊重されるまちをつくろう～

～身近な生活の中から学ぼう～

2021.10.21

第75号



人権・同和教育だより 丹波篠山

発行

丹波篠山市

人権・同和教育研究協議会

TEL・FAX 079-593-1260

http://t-s-doukyou-hr.jp

〒669-2734 丹波篠山市宮田240

丹波篠山市役所 西紀支所3F

年3回発行 6・10・2月

2021年12月11日(土) 13:00～16:10

第19回 人権フェスタ in 丹波篠山

会場：四季の森生涯学習センター

開会行事、あいさつポスター・人権作文受賞者表彰及び作文発表等 13:00～



第23回 丹波篠山市人権・同和教育研究大会

主催：丹波篠山市人権・同和教育研究協議会、丹波篠山市、丹波篠山市教育委員会

大会趣旨

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会は、発足以来「差別の現実から深く学ぶ」ことを基本理念としてきました。来年2022年は、全国水平社創立(1922年3月)から100年です。今大会は、「人権の歴史を学び 今に生かす」のテーマのもと、すべての人の幸福を願う社会の実現をめざして差別と向き合い、差別解消のために立ち上がった人々の生き方を学び、差別を許さない社会づくりのためにできることを市民の皆さんと一緒に考えたいと思います。

テーマ：人権の歴史を学び 今に生かす

※今年度は、新型コロナ
感染拡大防止のため、
分科会は開催しません。

基調講演 14:10～16:00

演題 『いま改めて部落史に学ぶ』～DVD「水平社を立ちあげた人々」を視聴して～

講師 外川 正明(京都教育大学名誉教授)

※新型コロナ感染拡大状況により、変更・中止になる場合があります。その場合は市同教ホームページでもお知らせいたします。前日までは、電話で問い合わせいただいても結構です。

「人権・同和教育セミナー2021」より

今年度から、人権・同和学習をもっと深めたいと考えておられる方や、次世代の人権教育研究のリーダー育成のため、1年にわたる5回の連続講座を企画しました。第1回の様子と参加された方々の感想を紹介します。



第1回 「差別とは ～差別の現状と課題～」 7月24日(土)開催

講師 細田 勉(関西学院大学講師)



インターネットを中心に、今も起きている部落差別の現状を紹介いただき、他方で見ようとしないう、見えにくくなっている部落差別の事例(差別を取り上げないマスコミや結婚、村人の転職、子どもにどう伝えるかなど)も取りあげられました。また、部落は一律的なマイナスのイメージがありますが、それぞれの部落には創造性豊かに生きてきた様々な生活や歴史、文化があると語られました。

【参加者の声】

- *部落には差別だけでなく、「無知」や「ネガティブ・マイナスイメージ」が強くつまっていることが分かりました。
- *具体的な取組みが聞けて被差別部落のイメージが変わりました。昔に学習して学んだ印象は、教育や住まいなどの環境が悪いイメージでしたが、そうした地域だけでないことが分かりました。知らない事もまだまだあり、学習の大切さを再確認しました。
- *教員として自分の話が生徒たちに、被差別部落に対して一律的なマイナスイメージを与えていないか改めて考える機会となりました。
- *部落差別は「過去」ではなく「今」の問題だと話された言葉がすべてだと思いました。情報があふれる現在社会だからこそ正しい情報、理解、人権教育が必要だと思いました。

あなたも丹波篠山市人権・同和教育研究大会に参加してみませんか？

- ◎どなたでも参加できます。手話通訳・ノートテイク(口述筆記)もあります。
- ◎本年度は新型コロナ感染拡大防止のため託児はいたしません。

「人権・同和教育セミナー2021」変更のお知らせ

新型コロナ感染拡大防止のため、9月4日に予定していました講座は下記の日程に変更して開催いたします(10月2日に開催しました第2回の今井進さんの講座は、次号にて開催報告を予定しています)。

	日時・場所	テーマ	内容	講師
3回	11月3日(水) 14:00～16:00 丹南健康福祉センター	人権の歴史1	中世～近世 部落差別の発生と 制度化	元大阪市立大学教授 上杉 聡さん
4回	11月20日(土) 14:00～16:00 四季の森生涯学習センター	人権の歴史2	明治維新～現代 差別が残された 構造	元大阪市立大学教授 上杉 聡さん
5回	1月29日(土) 14:00～16:00 丹南健康福祉センター	差別をなくす 主体者として	差別のない社会を ～自他ともに 輝くために～	三木市人権・ 同和教育協議会 春川 政信さん

※新型コロナ感染拡大状況により、再度変更・中止になる場合があります。変更・中止になった場合は市同教ホームページでもお知らせいたします。

みんなの人権を考える映画会より

ドキュメンタリー映画『ぼけますから、よろしくおねがいします。』



©「ぼけますから、よろしくおねがいします。」製作・配給委員会

8月9日に「みんなの人権を考える映画会」を開催しました。この映画は、娘であるテレビディレクターが、認知症を抱えた自らの母親と、その母親を支える父親をとらえたドキュメンタリーです。病気に直面し苦悩する母親に、その母親を懸命に支える父親。そしてその姿を記録として撮ることが自分の使命だと娘である監督は思い始めました。介護の厳しさや辛さ、そうした現状をありのままに伝え、他方で日々のちょっとした寄り添う心、つまり監督が言う「両親がお互いを思い合っている」という幸せに気づけ、介護に対して希望も持てた映画でした。

【参加者の声】

- ◆ 人権と高齢者介護について考えさせられました。
- ◆ 老々介護だけでなく、家族の愛を感じました。
- ◆ 家族だけでなく社会全体で支えていくこと、人として最後まで幸せに生きることなど色々と考えさせられました。
- ◆ 実生活と一緒にでした。良い映画を見せていただき、明日からも忘れず対応していきたいと思います。
- ◆ 久しぶりに感動し、あたたかい気持ちになりました。

専門部会研修会

* 保・幼部会研修会

10月19日(火) 18:30～20:00

内容:「元気が一番

～子どもの自尊感情、自己肯定感を高めるために～」

講師: 仲島 正教さん(教育サポーター)

場所: 丹波篠山市民センター 多目的ホール

* 学校部会研修会

11月16日(火) 13:30～16:30

内容:「対話を通して生き方について考えを深める道徳科の授業」

講師: 春川 政信さん(三木市人権・同和教育協議会 副会長)

場所: 篠山東中学校

* 男女共生部会研修会

11月15日(月) 13:30～15:00

内容:「ジェンダー平等で暮らしやすい地域づくりを！」

講師: 北村 久美子さん

(生涯学習応援隊 so-so.39 代表)

場所: 西紀老人福祉センター 多目的ホール

* 障がい者部会啓発チラシ設置・配布

12月上旬「障害者週間 12月3日～9日」

内容: 障害者週間啓発チラシの設置・配布

設置場所: 市内公共施設および事業所など

その他: 市内各3高等学校の全生徒に配布

* 高齢者部会研修会

市内各老人クラブ単位で実施します。

※研修会等は新型コロナ感染拡大状況により中止や変更する場合があります。

※上記以外の専門部会は、研修会の開催を検討しています。



暮らしの中から 見えない「しょうがい」〈この体で生きていく〉



「便失禁」は、まわりの方々に相談しづらく、「沈黙の苦悩」と呼ばれています。

私は、2年前の「人権・同和教育だより」に、56の時に直腸癌の手術で肛門括約筋を切除し、常に便が流れ出ている苦悩について寄稿しました。

そんな私をハッとさせることがありました。今年の5月の新聞記事のことです。新聞に、5日間に渡って「便失禁」の記事が掲載されていたのです。その記事を何度も読み返しました。胸が痛くなるほどの辛い思い

と共に、目頭に涙がにじんでくるほど赤裸々な思いが新聞紙上に綴られており、心打ち震えました。私の「便失禁」に関する情報収集量の少なさに起因するのかもしれませんが、それまで「便失禁」に関して、新聞や週刊誌等々で目にしたことが全くといっていいほどなかったのです。

その記事の中で、38歳の女性の患者の方が、「いろんな治療を試みたけれど、便失禁は治りませんでした。けれど、原因がわかっただけでも良かったです。この体で生きていこう。」と述べておられました。「この体で生きていこう。」の言葉には、38年間という長い苦悩の時を刻んでこられた「便失禁」である己の体をひとと抱きしめ、受け止められた壮絶な覚悟があったことと思います。この方の言葉に、私は生きることの尊さを感じずにはいられませんでした。そして、〈この体で生きていく〉覚悟を、優柔不断な私に授けてくださった、かけがいのない愛おしい「この時・この瞬間」でした。

私のように人生の途上で肛門括約筋を失い、常時便が出ている状態の方々にも障害者手帳が発行されるよう、これまで何度も要望してきました。そのたびごとに、「森田さんの願いが実現されるよう努力して参ります。」「森田さんの辛い思いを様々な機会にお伝えさせていただきます。」などと、私の願いを聞かれた方は答えてくださいました。しかし、訴え始めて2年経ちますが、障害者手帳はいまだに発行されません。そんな中、今回の「便失禁」の衝撃的な記事に出会ったのです。

見えない「便失禁」のような「しょうがい」は、なかなか理解されにくいものです。されど、今回の新聞掲載で「便失禁」の辛さを知っていただく機会が大きく広がっていきました。しかし、反対に、私は見えない「しょうがい」の方々への思いを巡らそうとしたらどうか、周りの方々の辛いお気持ちに寄り添い歩んでこれたかどうか等々自問自答せざるを得ませんでした。これまでの私の人生を思いおこせば、本当に恥ずかしい限りで、人として許せない行為をしてきたことも多々あると思います。しかし、ささやかな生活の中で、「便失禁」の体で生きていく覚悟をされ、新聞にありのままの自分を語られた方をはじめ、多くの見えない「しょうがい」と共に歩んでおられる方々に思いを巡らせ、寄り添える私でありたい。そして、痛みを分かち合う思いやりの心が人々の中に育ち、広がる社会になっていくことを信じて日々歩みたいと思っております。

(森田 貞二)

パパが育休を取った

これは、娘の友人夫婦のお話です。

4月、ママが赤ちゃんを出産しました。夫婦には小学4年生、2年生、2歳の女の子がいます。ママは仕事をしていますが、これまで育休を取って子どもたちを育ててきました。今回、4人目に男の子が生まれました。ママはこれまでと同じように、育休を取って子育てをすることに何の疑問も抱きませんでした。母親一人でもこれまでの経験もあり、大丈夫だと考えていました。

だから、パパが「5月～1月間、育休を取ることにするよ」と言ったとき、ママは(うれしい)とか(助かる)という気持ちより、本当に「えっ!」とびっくりしてしまったのです。だって、『会社はどうするの?休んで大丈夫なの?』『家事ってできるの?』という素朴な疑問がわきます。そして、『○○ちゃんのパパ、この頃お家にいらっしゃるの?』という世間の目はないかしら?いろいろなことが頭をよぎって、素直に喜べないママなのでした。

一方、育休を取ると決断したパパの背中を押したのは、2021年6月に改正された育児休業法でした。2019年度時点の男性育休取得率は約7%と低く、取得したいと言いつすにはかなりの勇気が必要だったようです。しかし、今回の改正で、育休が取得しやすいように、事業主は職場の環境整備や育休の取得率公表を義務づけられるようになったのです。また、2022年4月からは、妊娠・出産を申し出た労働者に対する個別の周知・意向確認や育休を使いやすい環境制度が義務化されることになっています。ということで、パパは育休を取ることを申し出て、上司や同僚の理解を得られたのです。

さて、育休中のパパはというと、普段はしない家事を頑張りました。毎日の掃除、洗濯、食事の準備・後片付けを全部こなしました。特に、2歳の三女の面倒を見てくれたのは助かりました。おかげでママは、ゆとりを持って赤ちゃんの世話に専念することができました。小学生の娘たちも大喜びでした。パパが育休を取ってくれて、本当に良かったと思っています。パパとママにとって、家事や育児を共有することで、更に強い家族の絆ができたのではないのでしょうか。

男性が当たり前に育休を取れるようになり、子育てを社会が後押ししてくれることで、母親が一人で悩んだり、子どもを虐待したりすることが少しでも減ることを願っています。



編集後記.....

おもちゃ売り場と言えば、男の子は青色、女の子はピンク色というイメージが最近までありました。しかしながら、アメリカの大手小売り企業では、2015年から性別でおもちゃの売り場を分けることを廃止しました。ディズニーも同年に子ども向けの衣装から男児用・女児用という表記をやめました。

2019年には、バービー人形(女性の形をした人形)で有名なマテル社が「Creatable World(クリエイイタブルワールド)」という人形のシリーズを発表しました。このシリーズは6種類の肌の色や付け替え可能な長髪や短髪の髪の毛があり、ストンとした体型で性別が男女どちらにも設定されていません。付属品の衣装などで、女性にも、男性にも、またどちらでもない性にも、あらゆる性に応じるよう、自分の思い通りの人形をつくる事ができます。

私たちは無自覚のうちに、子どもに「男の子だから○○」「女の子だから○○」と言葉にしていなかったのでしょうか。そうした刷り込みが無くなり、多様な性を認め合える社会になる事を希望しています。



住民会費・企業会費のご納入 ありがとうございました。

自治会をはじめ、市民や企業の皆様のご尽力により、9月末現在2,296,780円の会費をお納めいただいております。この貴重な会費は、私たち丹波篠山市で生活するすべての人たちが、互いの人権を尊敬し、あたたかく優しい気持ちで暮らしていくための啓発・学習活動に使わせていただいております。

今後とも丹波篠山市同教事業にご理解、ご支援いただきますようお願いいたします。